

西高殿若葉幼稚園 平成 29 年度 自己評価結果公表シート

1. 本園の教育方針・教育目標

【教育方針】

人や生きものを慈しむ心、旺盛な好奇心、物事に取り組む意欲、最後まであきらめない粘り強い心。
 集団の中での遊びや保育、またその延長線上にある行事などを通じ、子どもと保育者が日々過ごし、体験してゆく中で、人とのかかわり合いやルールを学びながら、子ども自らが育とうとする力を、感じ合い、喜び合いながら、心身ともに健やかな幼児期を過ごせるよう保育を行う。

【教育目標】

- 健康でのびのびと活動する子ども
 - 「きれい」「ふしぎ」「四季」を感じ取ることのできる感性豊かな子ども
 - 物事に一生けんめい取り組み、あきらめない心を持つ子ども
 - 人の気持ちが理解できる、やさしい子ども
 - ルールを守り、仲よく遊べる子ども
- に育ってゆけるよう、教職員一丸となって保育にあたる。

2. 本年度、重点的に取り組む目標及び計画

- ・子どもたちがこの時期にしか得られない、幼児にふさわしい園内環境を提供する
- ・研修に積極的に参加することで専門性を身に付け、子どもに質の高い保育を保障する
- ・家庭との連携を行い、子どもの生活や育ちを園と保護者が共有できるよう積極的な情報発信を行う
- ・遊び（学び）の連続性を踏まえ、様々なあそびで人とのふれ合いや試行錯誤を体験させ、社会性、考える力の素地をつくる

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組みの状況
幼児の生活にふさわしい 園内環境づくり（園庭・ 保育室）	常に自然に親しみを感じ、生命の尊さや不思議さに気づくことができるよう、園庭に樹木や草花を配置し、日々、興味、関心をもったことについて保育者に尋ねたり、友だち同士で調べたり、自分で考えながら行動できる環境づくりを行っている。また、子どもたちの育ちを支え、身体機能を向上させる大型遊具や科学的な思考を育む砂場など、遊びながら学べる環境を充実させ、日々、質の高い遊びと日常の点検により安全の確保を徹底している。整理整頓された保育室では生活しやすい雰囲気づくりや、月ごとに変わる壁面制作は、子どもたちが日常的に興味を持てるような掲示を行う。ただ、遊びのためのコーナーを常設できるスペースが無いため、ピロティーに絵本コーナーを設け、また、小動物を飼育する場所を設け、年齢に関係なくふれ合える場所を設置している。
教員の資質向上と 保育の質向上	年度当初に園の理念、目標を共有し、それに基づき日々の保育内容を学年ごとに計画を行い、学年ごと、また全体に及びコミュニケーションを取りながらカリキュラムの設定や行事の打合せを行った。次年度より改訂される教育要領のキーワードである「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」を念頭に、日々の保育や活動が10の姿のどの項目に該当するのか。また、子どもの育ちにどのようにつながっていくのかを意識しながら保育にあたった。また、積極的な研修参加により、知識はもちろんのこと、子どもの心もち、保護者理解を深めることができた。また、各担任からのレポート提出により、学びへの振り返り、また、職員間での情報共有は、職員全体における専門性の向上と、園全体の教育・保育に対する意識の向上につながった。
保護者理解と保護者の 子ども理解	子どもの成長を支えていくためには、保護者と保育者双方の信頼関係が必要であるため、日々、家庭との連携を密に行い、園と保護者が手を携えながら協力し、子育てを行うようにしている。毎月の園だより、クラスだより、また、懇談会を設ける他、自園のホームページにおいての教員ブログで情報発信を行っている。その中では、日々の子どもの活動の様子はもちろん、子どもへの思い、保育者自身の思い、また、保育観などを綴りながら日々発信を行った。しかし、すべてを理解し、共有することは難しいため、今後は更に有効な情報発信への手段を考え、保育者、保護者が共に子どもの育ちを意識できるよう努める。
あそびの充実	子どもは遊びを通してさまざまなことを学び成長していく。子どもが主体的に活動できるよう、日々のカリキュラム、行事を綿密に組み立て実践できるよう努めた。単に与えられたもので遊ぶだけではなく、「主体性」をもって活動することで「想像力」「集中力」が養われているかを考え、子ども同士の関わりの中で共同・協同する姿が見られるように、遊びの室にも重点を置いた。また、園庭で過ごすことで四季を感じられるよう、樹木、草花を配置することで、必然的に自然物とふれ合うなど、身近な自然体験の中で生命の意味、自然の不思議さを実感できるよう園庭環境にも配慮した。また、存分に体を動かしたり、ルールのある遊びを導入したりして、子どもの心身の発達を意識し、日常的に遊ぶ時間を取り入れた。
子育て支援	地域の子育てに貢献できるよう、月1、2回程度園庭の開放を行い、子育て中のお母さん同士のコミュニケーションのみならず、保育者とのコミュニケーションを取ることで、育児の悩みや、子どもの育ちを相談できるよう開催した。未就園児が楽しく安全に、安心して遊べることはもちろん、保護者のリフレッシュもできるよう施設を解放した。また、就園に関して当園を知ってもらう機会にもなり、それと並行しながら子育てに関する事も共有できるよう保護者と接することができた。

4. 学校評価の目標・計画の総合的な評価

平成 29 年年度における園の全体的な目標・計画を基に、日々の保育を通じて実践を行うことができた。特に、保育者間での情報共有を積極的に行い、研修で得てきたこと、保育実践における悩みや工夫、子ども理解、保護者理解など、定期的なミーティングと日々のコミュニケーションにおいて共有、解決していくことで、保育者それぞれが向上心と自信をもって保育実践につなげていくことができた。

5. 今後取り組むべき課題と充実すべき課題

【園内研修の充実】

積極的な研修の参加、職員間における「ホウ・レン・ソウ」は常に密に行っており、上記における全体的な目標・計画の大方の部分は遂行できているが、園内研修の面においては時間的に余裕が無いため十分な時間が確保できていないのが現状であり、今後、園内研修の概要を理解し、積極的に取り組めるよう検討を行う。

【保育の質向上】

日々の保育の中での悩みを職員間で話し合ったり、研修で学んだことをできるだけ活かせるようにしている。保育者は、子ども一人ひとり、また、クラス、学年、その年の全体の特徴を把握し、年度当初に話し合った自園の目標を常に意識しながら、自身の保育への振り返り、今後の課題を踏まえながら保育を展開すべきと考える。

【職員間における情報共有の徹底】

月一回の職員ミーティングにおいて、それぞれのクラスの子どもの様子を細かく話し合い、保育者全体で共有を行っているが、自分の受け持ちクラスだけではなく、他のクラスの保育の進み具合、今後取り組んでいく内容を報告しながらそれぞれが認識、把握し、園全体の流れを理解しながら他の学年、他のクラスの保護者ともコミュニケーションが取れるよう心がけていく。

【人材の育成】

保育者以前に社会人としての常識やマナーを身に付けるべく、保育者自身の学びと、経験の浅い教諭への指導にも力を入れ、園全体で相互にサポートを行っていかねばならない。日常業務の内容も毎年見直し、円滑に業務が行えるよう考慮しているが、もう少しレベルアップしたマニュアル化が必要となっている。

【子育て支援】

子どもにとって安全な遊び場が年々減少している中、幼稚園は楽しく、安全・安心な子どもが育つ場として開放されるべきと考える。月 1、2 度の休園日での園庭開放では 1 回約 50 名前後の未就園児が来園され、賑やかで保護者にとっても、子どもにとって良い環境を提供できていると自負しているが、平日開催が物理的に厳しい部分があり、少人数開催の園庭開放を組み込んでいけるよう検討を行う。

6. 学校関係者の評価

平成 29 年年度においても職員全員が一丸となって、子どもの育ちを一番に考えた保育を行っておられました。また、積極的な研修の参加で、現在、保育に必要とされること、また、先を見据えた保育のあり方など深い学びをされていることは、子どもへの関わりにも大きく影響するものだと思います。また、職員同士のコミュニケーションも積極的に行われることでチームワークの向上にもつながり、先生同士の雰囲気の良いは、間接的にも子どもたちに影響していくものと考えます。今後も、さらに研鑽を重ねながら、幼稚園が子どもにとっての大きな学びの場となるよう期待します。

7. 財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められている。